

6 月 1 3 日 (水)

(第 2 日)

平成30年第2回高森町議会定例会（第2号）

平成30年6月13日

午前10時00分開議

於 議 場

1. 議事日程

開議宣告

日程第1 決議第1号 特別委員会の委員定数の変更について

日程第2 決議第2号 阿蘇の世界文化遺産登録に向けた「阿蘇地域の文化的景観を守り、次世代に継承する」ための決議について

日程第3 一般質問について

議 席	氏 名	事 項	要 旨
6 番	立山 広滋	南阿蘇鉄道高森駅周辺グラ ンドデザイン	①高森駅周辺町有地内への地区公 民館建設について ②「くまもとフリーW i - F i 事 業」の実施に伴い、防災機能や 観光者利用を想定した同公民館 はカバー出来るのか ③駅周辺開発に伴う高森駅舎の建 て替えについて
1 番	牛嶋津世志	南阿蘇鉄道高森駅周辺グラ ンドデザイン	①地震により延期になっている、 商工会館の移動について ②地区公民館の建設で防災機能を 想定 非常用貯水タンク（防火水槽） の設置はあるのか
		地域おこし協力隊	①事業9項目で13名の募集。ど の分野で何名採用しているか ②現在何名活動しているか

1 番	牛嶋津世志	地域おこし協力隊	③議会や住民との意見交換会 ④単年度毎の報告会
		南鉄沿線公共交通網形成計画	①計画書の内容をどのようにして、高森町・南阿蘇村の住民に伝えるのか ②高森町の中学校・高校、南阿蘇村の中学校に配布してはどうか

2. 出席議員は次のとおりである。(9名)

1 番	牛嶋津世志君	3 番	後藤三治君
4 番	興梠壽一君	5 番	芹口誓彰君
6 番	立山広滋君	7 番	森田勝君
8 番	本田生一君	9 番	田上更生君
10 番	佐伯金也君		

3. 欠席議員は次のとおりである。(0名)

4. 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名(20名)

町 長	草村大成君	副 町 長	本田敦美君
教 育 長	佐藤増夫君	総 務 課 長	沼田勝之君
生活環境課長	後藤健一君	会 計 課 長	古澤要介君
健康推進課長	阿南一也君	住民福祉課長	佐伯実君
建 設 課 長	東幸祐君	農林政策課長	荒牧久君
税 務 課 長	松本満夫君	政策推進課長 兼TPC事務局長	田上浩尚君
教育委員会事務局長	馬原恵介君	たからポイントチャンネル事務局次長	岩下徹君
政策推進課審議員	橋本俊太郎君	健康推進課審議員	野中裕美子君
建設課審議員	野尻光也君	税務課審議員	丸山雄平君
教育委員会審議員	古庄泰則君	総務課総務係長	住吉勝徳君

5. 本会議に職務のため出席した者の職氏名(2名)

議会事務局長	安藤吉孝君	議会事務局庶務係長	眞原友紀君
--------	-------	-----------	-------

開議 午前１０時００分

-----○-----

○議長（田上更生君） おはようございます。

これから、本日の会議を開きます。

お諮りします。お手元に配付してあります日程に従って議事を進めたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（田上更生君） 異議なしと認めます。それでは日程に従って議事を進めます。

なお、総務課財政係長 代宮司猛君から欠席届がっておりますので報告いたしておきます。

-----○-----

日程第１ 決議第１号 特別委員会の委員定数の変更について

○議長（田上更生君） 日程第１、決議第１号 特別委員会の委員定数の変更についてを議題とします。提出議員からの説明を求めます。

７番 森田勝君。

○７番（森田 勝君） おはようございます。

７番、森田です。地方創生特別委員会から、報告いたします。

現在、定員が６名でございますが、この定員を９名にすることで議員のほうから提案が出ておりますので、どうぞ、この９名のほうにできますよう、よろしくお願いいたしたいと思います。

以上でございます。

○議長（田上更生君） 提出議員の説明が終わりましたので、質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（田上更生君） 質疑なしと認めます。

討論はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（田上更生君） 討論なしと認めます。

お諮りします。決議第１号、特別委員会の委員定数の変更については原案のとおり決定したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（田上更生君） 異議なしと認めて、原案のとおり決定いたします。

-----○-----

日程第2 決議第2号 阿蘇の世界文化遺産登録に向けた「阿蘇地域の文化的景観を守り、次世代に継承する」ための決議

○議長（田上更生君） 日程第2、決議第2号、阿蘇の世界文化遺産登録に向けた「阿蘇地域の文化的景観を守り、次世代に継承する」ための決議についてを、議題とします。

提出議員からの説明を求めます。6番 立山広滋君。

○6番（立山広滋君） おはようございます。6番 立山です。

提案理由の説明をいたします。

現在、阿蘇の世界文化遺産登録に向けた取り組みと環境づくりが進められており、次世代に継承していくために、これらの取り組みを支持し、支援していく必要がある。そのため、高森町議会は次のとおり決議するものであります。

阿蘇の世界文化遺産登録に向けた「阿蘇地域の文化的景観を守り、次世代に継承する」ための決議。

阿蘇郡市世界文化遺産登録事業推進協議会を構成する阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村では、「世界文化遺産登録推進」の取り組みの一環として、各市町村の特性が活かされた景観の保全と創造を図り、住みよい魅力ある郷土の実現に資するために景観条例を制定し、かつ地域の歴史、文化、農林業等の産業の表れである風景の価値を見直し、次世代に継承するために、文化財保護法に基づく重要文化的景観の国選定の取り組みを進めている。

また、ジオ（地球）に関わる様々な地層・岩石・地形・火山・断層などの自然遺産を保護・活用する「阿蘇ユネスコジオパーク」の活動にも取り組んでいる。

そのような中、経済界、報道機関、学識経験者等で作る「阿蘇世界文化遺産登録推進九州会議」が設立され、阿蘇の世界文化遺産登録に向けた運動が積極的に展開されていくことになった。

各市町村においては、草原に代表される地域の宝である文化的景観を保護し、魅力ある阿蘇の景観の形成及び次世代への継承を目指すため、自ら行う公共事業等に関しては最大限、景観に配慮した工事を行うものとし、下記事項について取り組むこととしている。

高森町議会は阿蘇の世界文化遺産登録に向けたこれらの取り組みを支持し、支援協力を行うものである。

記

- 1、国県道等の道路施設等の工事における景観への配慮
- 2、砂防事業や治山事業のダム・堰堤及び流路等の工事における景観への配慮
- 3、その他公共事業等の工事における景観への配慮
- 4、草原保全に関する施策の実施
- 5、国・県への取り組みの要請

以上、決議する。

平成30年6月13日 高森町議会

○議長（田上更生君） 提出議員の説明が終わりましたので、これから質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（田上更生君） 質疑なしと認めます。

討論を行います。討論はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（田上更生君） 討論なしと認めます。

お諮りします。決議第2号、阿蘇の世界文化遺産登録に向けた阿蘇地域の文化的景観を守り次世代に継承するための決議については、原案のとおり決議いたします。

—————○—————

日程第3 一般質問について

○議長（田上更生君） 日程第3、一般質問を行います。

順番に発言を許します。

6番 立山広滋君。

○6番（立山広滋君） おはようございます。6番 立山です。私の本日の質問は、南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発グランドデザイン作成事業についてであります。

この事業は平成30年第1回高森町議会定例会において、一般会計当初予算事業として実施することを決定したものです。

内容としては、高森駅前公園敷地内への地区公民館建設や、高森駅舎の建て替え等が含まれており、町の拠点の1つである高森駅前の将来像を描くという重要な事業となっています。本日はこの事業について質問したいと思います。

では、最初の質問に入ります。

南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発グランドデザイン作成事業の概要について第1回定例会でも説明を受けましたが、改めて政策推進課長にお尋ねいたします。

○議長（田上更生君） 政策推進課長 田上浩尚君。

○政策推進課長（田上浩尚君） おはようございます。

南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発グランドデザイン作成事業につきましては、2020年度予定の南阿蘇鉄道の全線復旧を見据え、南阿蘇鉄道沿線地域公共交通網形成計画に掲げる取り組みを着実に推進するため、高森駅周辺の再開発に着手し、熊本地震からの創造的復興を達成するために、将来像及び再開発年次計画を作成するものであります。

具体的内容としましては、一つに高森駅芝生広場周辺の公園化。二つ目に高森駅前公園敷地内への昭和地区公民館の建設。3つ目に高森駅前駐車場に展示していますSL等の有効活用。4つ目に高森駅舎の建て替え。5つ目に高森駅を中心とした阿蘇の周遊性を創出する全体構想を想定しております。

事業費といたしましては2,500万円を計上しておりまして、この全額を高森町の復興基金のほうから充当いたすところでございます。

○議長（田上更生君） 6番 立山広滋君。

○6番（立山広滋君） 自席から失礼いたします。

事業の内容につきましては、今、政策推進課長から説明していただきましたけれども、この事業については6月5日に熊本県知事の記者会見で熊本アートポリスプロジェクトを活用することが発表されています。熊本アートポリスプロジェクトは、後世に残る文化的資産の創造と地域の活性化を目指して、熊本県が推進している事業であり、1988年細川知事の時代に開始され、これまでに97件の学校や病院、団地などがつくられたと聞いています。この熊本アートポリスプロジェクトを活用する場合に、懸念されることがあります。それは地元が望んでいるものが本当につくられるのか、という点です。と言いますのも、これまでアートポリスプロジェクトでつくられた建物は、奇抜なデザインのものが多いという印象があります。果たして、そうしたものが高森町の景観に合うのか。また、そうした建物は維持補修に余計な手間や費用がかかるのではないのでしょうか。重要なことは、デザインにあたっての地元の声をしっかりと汲んでいただくことだと思いますが、こうした点についていかがお考えか、町長にお尋ねいたします。

○議長（田上更生君） 町長 草村大成君。

○町長（草村大成君） 議員が今、質問のなかでお伝えされたことは、たぶん高森の町民の皆さまだけでなく、県民の皆さまもアートポリス事業に関してはイメージは持たれているのではないかと考えております。しかしながら、一方、私の個人的な意

見であります、熊本県が推進する事業で30年以上続いている事業というのは、私はあまりないのではないかと思いますし、その事業の内容、県の推進の在り方であつたり中身に関しては、これは時代とともに変化があつてきたからこそ継続していると思っております。

今回、県から推薦するというお答えをいただきまして、当町としてはしっかり取り組んでいきたいと考えております。また、本田副町長が県のほうからお越しでございますので、アートポリス構想についても本田副町長のほうからも御答弁をさせていただければと思っております。

以上です。

○議長（田上更生君） 副町長 本田敦美君。

○副町長（本田敦美君） 町長からもお話しございました、6番、立山議員の質問につきましては、私、県から参っておりますので、私のほうからお答えさせていただきます。

熊本アートポリスプロジェクトにつきましては、議員御指摘のとおり、過去には前衛的なデザインであるとか使い勝手が悪いとか、必ずしも好意的な意見ばかりではなかったということは、私自身も認識しているところでございます。しかし、事業開始から30年経つなかで、現在は住民に寄り添う形に変化しているように感じております。このきっかけとなりましたのは、熊本地震はもとより東日本大震災、九州北部豪雨災害などの被災者のために整備された交流施設「みんなの家」の整備でございまして、「被災者が生活しやすい建物は何か」と建築家と住民が一緒になって考えていくプロセスが形成されていくようになったと、県の建築課のほうから聞いているところでございます。

これまでの経験を踏まえ、現在のアートポリスプロジェクトは「自然に開き人と和す」和は調和の和でございますけれども、「自然に開き人と和す」これをテーマに進められております。

高森駅前再開発のグランドデザインにつきましても、まさしく高森の雄大な自然と調和すること、地元の声をしっかり聞き、それを反映していくことが必要でございます。私は県から出向している立場でございますので、その点はしっかりとチェックしてまいります。また、議員の皆さまの御意見をお伺いする機会もあるかと思っておりますので、その際は御高見賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（田上更生君） 6番 立山広滋君。

○6番（立山広滋君） 熊本アートポリスプロジェクトが住民、地元に寄り添ったもの

に変わってきているということで、今、副町長がおっしゃいました「自然に開き人と和す」ですか。分かりました、初めて聞いた言葉なのですけれども。ある程度アートポリスプロジェクトについては、今、副町長の説明のとおり理解しました。高森駅周辺の再開発のデザインについても、ぜひ、地元の声、住民の声を反映したものにしていただきたいと思います。

では、次の質問に移ります。

グランドデザインに含まれている昭和地区公民館の建設についてです。新たに建設される昭和地区公民館は、高森駅に近い幹線道路沿いであり、スペースも広く町内外の方々が利用しやすい場所にあります。こうした場所に公民館が建設されることの意義について政策推進課長のお考えをお尋ねいたします。

○議長（田上更生君） 政策推進課長 田上浩尚君。

○政策推進課長（田上浩尚君） 自席から失礼いたします。

昭和地区公民館は、高森町商工会前の町有地に建設される予定となっております。この場所は、議員からの御発言がありましたとおり、高森駅に近い幹線道路沿いでございます。地元の方が集まりやすい場所であるだけではなく、高森駅を利用する観光客にとってもアクセスしやすい所だと思います。そのため、地域住民の活動の場や災害時の避難場所としてのみならず、地域住民外の方との交流も期待できるなど、その効果は多岐に渡るものであると考えます。新たに建設される昭和公民館が、こうした効果を発揮し、地元の方や地域外の方にも広く利用される場となることを期待しております。

○議長（田上更生君） 6番 立山広滋君。

○6番（立山広滋君） 今、課長の答弁にあったとおり、この公民館は様々な面での効果が期待できるのではないかと思います。

そこで次の質問ですけれども、そうした効果を発揮させていくのであれば、誰でもアクセスできるような通信環境を公民館に整備することが必要不可欠と考えます。高森駅については、今年度県の「くまもとフリーWi-Fi」事業を活用し、Wi-Fiを整備する予定ですが、このWi-Fi整備エリアに新しく建設される公民館は含まれるのでしょうか。政策推進課長にお尋ねいたします。

○議長（田上更生君） 政策推進課長 田上浩尚君。

○政策推進課長（田上浩尚君） お答えいたします。

今年度県の「くまもとフリーWi-Fi」を活用して高森駅にWi-Fiを整備する予定としておりますが、新しく建設される昭和公民館はこのエリアには入ってお

りません。

一方、議員の発言のとおりWi-Fiの整備は昭和公民館を最大限に活用するための有効な方策だと考えております。指定避難場所等にはWi-Fiを整備するのに県の補助事業等を活用できますことになるからですね、Wi-Fiの整備につきましては公民館が建設されましたあとに、地元の方とよく協議をしながら検討してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（田上更生君） 6番 立山広滋君。

○6番（立山広滋君） この公民館へのWi-Fi整備はぜひお願いしたいと思います。

では、次の質問に移ります。グランドデザインには、高森駅舎の建て替えも含まれていますが、新たな駅舎の内容について現時点で決まっていることはあるのか、政策推進課長にお尋ねいたします。

○議長（田上更生君） 政策推進課長 田上浩尚君。

○政策推進課長（田上浩尚君） お答えいたします。

建て替え後の高森駅のデザイン等につきましては、現時点では決まっていることはございません。今回実施します熊本アートポリスプロジェクトを実施するなかで、そうした高森駅のデザイン等が決まってくるものになります。

まずは現在行っています公募に対し、多くの方々から提案があることを期待したいと思っております。以上です。

○議長（田上更生君） 6番 立山広滋君。

○6番（立山広滋君） はい、分かりました。

最後の質問です。冒頭でも申し上げましたけれども、このグランドデザイン作成は町の拠点の一つである高森駅前の将来像を描く重要な事業です。この事業を通じ、どのような高森駅前の将来像を描かれるのか、町長にお考えをお尋ねいたします。

○議長（田上更生君） 町長 草村大成君。

○町長（草村大成君） 駅前のグランドデザイン計画でございます。当然、これは再開発となるような計画を今から協議して立てるということでございますし、議会も当初予算でその計画に関しての第一歩に関しては賛同いただいているところだと認識をいたしております。ただ、これは最終的に南阿蘇鉄道の全線復旧と時期が同じような、そういうところをしっかりと打ち出していくべきではないかと。なぜなら、指針になるからです。その指針というのは、熊本地震からの創造的復興の象徴になると思っております。そもそも、もう1点ございますが、高森町は私が町長にならせていただきまして8年目を迎えますが、高森町観光立町基本条例に基づく基本計画

のなかでも、しっかり謳ってきたところでございますので、町長の施策としても方向性は間違っていないと思っております。住民の皆さまがわくわくドキドキするように、そして観光客の皆さまには来てよかったと、コンパクトけどしっかり周遊しやすい、そして商売される方には4年後5年後を見据えた新しいそれぞれの計画がやっていけるのではないかと考えております。

高森駅は南阿蘇鉄道の始発でございます。ある意味、終点でもございます。この始発は変わりません。終点は今後の公共交通網計画で謳われているように、例えばJRとの連携。要は、乗り入れであったりそれぞれいろんなことが施策で打ち出されておりますが、実現するとなると熊本県も提案されております熊本の大本空港構想にも寄与できるのではないかと。だからこそアートポリス構想でもしっかり県が応援をしていただくなっているのではないかと考えております。

施策的には、行政の用語で言いますと交通施策ではなくて、交通施策を大きくするのではなくて、地域振興施策であったり観光施策である。要は総合施策の大きな柱になるのではないかと考えております。以上です。

○議長（田上更生君） 6番 立山広滋君。

○6番（立山広滋君） 今日とは時間短かったんですけども、駅前の再開発、グランドデザイン等々に関する質問をいたしました。

最後に町長のほうから、全線復旧に向けていろいろな発言がありましたけれども、その発言に対して今後期待して、一緒にやっていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

これで一般質問を終わります。

○議長（田上更生君） 6番 立山広滋君の質問を終わります。

続きまして、1番 牛嶋津世志君。

○1番（牛嶋津世志君） おはようございます。1番 牛嶋でございます。一般質問を行います。

我々議員も町長も任期は残すところ1年を切りました。町長は副町長を任命されて、ますます忙しく働きまわっていますが、私も町民の皆さんの声を少しでも行政に届けられるよう努力しているところでございます。

今回の質問は平成30年度予算が確定したなかで、何点か確認、事業計画の内容、地域住民の要望など反映されているか質問いたします。町長が2期目をスタートしたとき、マニフェストの1番に挙げていた高森町観光立町推進計画の実現に向けて動き始めた矢先に熊本地震が発生。様々な事業がとん挫、または宙に浮いたままに

なりました。予定外の復旧作業に追われるなか2年が過ぎ、大方の復旧計画の目途がついたというところで、平成30年度予算に高森駅周辺開発グランドデザイン作成があります。高森駅周辺には、個人住宅、店舗、空き家、空き地などが点在しているが、これらの取り扱いを町としてはどのように考えているのか。また、地域おこし協力隊の募集があります。今年度は9項目13名の募集がしてあります。これは、特別交付税措置またはふるさと納税での予算で補うためか、隊員の方々の姿、声が見えない聞こえないなど、いろいろ伺っております。議員のなかでも、全員を把握している方は、たぶんいられないと思います。職員の皆さんのなかでも全員を把握されている方がおられるか、ちょっと確認はしておりますが、ましてや住民の皆さんにおいては、1人も知らないという方もいらっしゃるのではないかということです。ここに広報での紹介、6名の方が紹介されてありますが、私もこのなかで2人ぐらいしか面識がございません。そこあたりの紹介等も伺いたいと思います。

最後に、南阿蘇鉄道沿線地域公共交通網形成計画が平成30年3月に発表されました。南阿蘇鉄道に関しては、町長の多大な努力により国から予算を取りつけ、着工から5年程度で全線復旧する予定ですが、本計画書は鉄道や道路の復旧状況、その他地域の復旧状況の変化を考慮し、2018年から2032年の15年間を対象にしてあります。高森町観光立町を目指すなかにおいて、南阿蘇鉄道は絶対必要と思いますが、本計画書の取り扱いについても少し伺いたいと思います。

まず最初に、高森駅周辺開発グランドデザイン作成について伺います。高森駅芝生広場周辺の公園化で既設団体の移転対応を含むとあるが、これは高森町商工会のことを指していると思うが、2年前に建物の賃貸契約の終了を通告され、移転先が決まらずに商工会も大変な思いをしていたときに、熊本地震の影響で延期になっていましたが、再度この計画ができることで移転先を探すことになると思います。商工会は高森町の商工業者において絶対必要な団体であるというところで、高森町として移転先の紹介または新設するときになれば、助成などを考慮されているか。また駅駐車場前の空き地はグランドデザイン計画のなかでどのような計画をされるのか伺いたいと思います。現状のままでは、本庁舎の前の空き地と同様になりかねないような状況になるかと思いますので、このあたりをまず町長に伺いたいと思います。

○議長（田上更生君） 町長 草村大成君。

○町長（草村大成君） 商工会の空き地の利用と周辺の空き家というのは、その空き地のことですかね。まず、商工会の移動に関しまして議員もご存知だと思いますが、

これは今建っている土地は高森町の公有地で、建物は阿蘇広域行政でございます。広域行政の建物のなかではかなり古いほうの建物でありまして、約45年以上経っているのではないかと考えております。広域といたしましても、熊本地震前そして後もこの広域が持っている建物に関してのチェック等々もやっているところ、そして今現状でやっているところ等々もございますが、そういうなかでかなり年数が経っているということで、実は安全面も考慮して数年前に商工会のほうにお願い御協議を申し上げたところでございますが、おっしゃるとおり熊本地震が発生しました。そして、そのあとに平成30年、今年の1月の冒頭に商工会長とお話をさせていただきまして、移転に関しての御協力をお願いしたところでございます。了解をなされました。そして、例えば商工会の会員に対しての周知に関しては、これは町ではなかなか難しいと、できれば商工会のほうで御理解と御協力をいただけないかということもその場でお願いをしたところでございます。会長のほうからは、「分かりました」とお返事をいただいているところでございます。

このグランドデザインに、それともう1つこの空き地ですね、ここは私有地でありますので、今回のグランドデザインの対象地域には含まれておりません。ただ、これからグランドデザインを協議して始まりますので、その内容を見て必要であれば、例えば民有地の購入であったりもしくは借りたりとか、いろんな形での検討をしてみたいと思っておりますので、その節は御理解と、まずその前に御意見を議会に伺いながら進めてまいりたいと考えております。以上です。

○議長（田上更生君） 1番 牛嶋津世志君。

○1番（牛嶋津世志君） 今から始まるグランドデザインですので、それが少しずつ形に見えてきた時点で、またお伺いしたいと思います。

続きまして、高森駅前公園敷地内に地区公民館を併設、観光者向けの防災機能や観光者を利用したものと想定がありますが、防災機能で高森駅周辺には防火水槽がありません。防災用の貯水タンクを設置することで、防災及び防火水槽の二つの機能を有することになると思いますが、今度の計画で建設予定はあるか。または今後計画する予定があるのかをお伺いしたいと思います。

総務課長、お願いします。

○議長（田上更生君） 総務課長 沼田勝之君。

○総務課長（沼田勝之君） おはようございます。

高森駅周辺の防火水槽設置につきましては、以前より地域の要望があり、また近年、駅の西側地域に住宅が多数建てられている現状から、その住宅地もカバーでき

るようにということで、高森駅駐車場の一番南側の位置します高森駅からの最初の踏切であります高森西踏切の近くに設置予定をしております。

水槽の構造規格といたしましては、ガラス繊維と熱硬化樹脂などの組み合わせにより複合材料を使用しまして、頑丈な造りとなっております、また耐震性の構造でありまして地震にも強く、地下埋め込み型の貯水槽とする計画であります。

水槽の水の容量といたしましては40トンタンクといたしまして、設置時期といたしましては冬場は火災シーズンとなりますことから、11月中に竣工できるよう目指して、これから取り組んでまいりたいと思います。

以上、答弁といたします。

○議長（田上更生君） 1番 牛嶋津世志君。

○1番（牛嶋津世志君） 防火水槽を設置予定があるということで、大変ありがたいことかと思えます。地域の住民も喜んでくれることかと思えます。

続きまして、地域おこし協力隊について質問いたします。地域おこし協力隊を平成30年度は事業9項目、人員として13名の募集をしているが、現在、どの事業に何名採用、また現在何名活動されているのかを伺いたいと思います。また、募集はまだされているのか、続いているのか伺いたいと思います。

政策推進課長、お願いします。

○議長（田上更生君） 政策推進課長 田上浩尚君。

○政策推進課長（田上浩尚君） 地域おこし協力隊の概要について、まず御説明したいと思います。地域おこし協力隊とは、都市部から移住し、まちづくりの取り組みに従事していただく制度で、活動期間は最長で3年、1年ごとの更新となっております。隊員1人につきまして、年間400万円を上限に特別交付税が国から支給されております。本町では、隊員の活動費は400万円以下を原則としておりますので、地域おこし協力隊制度は実質的なまちの財政負担はなく、高森町への移住者を増やし、まちづくりに関する業務に取り組んでいただけるというメリットがあります。そのため、町としては積極的に活用しており、昨年度事業9分野、13名を募集し、この結果として現在6分野で6名を採用いたしました。

分野ごとの内訳は次のとおりでございます。南阿蘇鉄道を軸とした復興支援業務に2名、このうち1名につきましては7月からの採用となります。ロアッソ熊本との連携事業に関する業務に1名、こちらは現在活動されております。町の特産品をインターネット等で販売する業務に1名、こちらも活動されております。高森町の体験型プログラムの作成、旅行代理店と連携したツアー計画等に関する業務に1名、

今活動中です。たかもりポイントチャンネルの事務局に関する業務に2名、このうち1名につきましては7月からの採用となっております。草部南部地域での農業振興業務について2名、1名は今採用されておりますが、残り1名については募集のほうを今回は中断しております。引き続き募集を行う業務としまして、高森町を魅せるということでデザイナーの業務に1名、高森総合地域スポーツクラブ、通称高スポの運営業務に1名、高齢者の介護予防プロジェクトに関する業務に2名、以上4名について現在募集中でございます。

なお、地域おこし協力隊制度は忘れてはならないのが、その経済効果でございます。先ほど申し上げましたとおり、隊員1人あたり400万円が特別交付税として国から措置されます。今回、採用を決定した協力隊員は6名ですので国からの特別交付税は単純計算で年間2,400万円になります。昨年度からの継続採用者1名と、7月からの採用予定の2名を加えますと、今年度分だけでも3,400万円になります。このお金につきましては、家賃や飲食、物品等の購入等、様々な形で地域に落ちることになっており、地域おこし協力隊は隊員を採用することでそれ自体が大きな経済効果が見込まれるものであると考えております。

なお、現在の活動をしている状況につきましてですが、現在、先ほど言いましたとおり昨年からの継続者1名を含め7名の地域おこし協力隊が活動しており、7月からこのほかに2名が活動開始する予定でございます。

ちなみに、今年の4月には2年間、高森町で地域おこし協力隊として活動していたウォーターフォレストのシェフ加藤さんが独立して町内の飲食店の経営を開始されております。このケースは地域おこし協力隊制度を活用し、新たな雇用の創出、また本町への定住を図ることができたという点では、全国にも誇るべき事例であると考えております。

以上でございます。

○議長（田上更生君） 1番 牛嶋津世志君。

○1番（牛嶋津世志君） 先ほど総括で述べたように、地域おこし協力隊員として我々住民との間で交流もないまま辞めていかれる隊員もおられると思います。議会としては事業及び予算を協議して承認しているのですから、行政として地域おこし協力隊員の紹介、または意見交換会の場を設けるべきではないだろうかと思えます。今年の3月に小国町で地域おこし協力隊の活動報告会がありました。これは住民参加で約50名の参加があったということでございますが、今後の隊員の活動内容や今後の抱負などを発表したということでございます。高森町においても、ぜひ、隊員

との交流及び活動内容、抱負などを発表していただく機会を設けてもらいたいと思いますが、そういう計画ができますでしょう。政策推進課、お願いいたします。

○議長（田上更生君） 政策推進課長 田上浩尚君。

○政策推進課長（田上浩尚君） 地域おこし協力隊は、町外から来られているので本町の魅力や課題を理解されているわけではございません。地域おこし協力隊には、こうした町の魅力や課題に対する地元の思いを正しく理解してもらう一方、地元の方にも地域おこし協力隊の活動を知っていただき、ともに町のPR方法や課題の解決に図っていくためにも、議会や住民との意見交換は有益ではないかと考えております。

ちなみに、熊本県でも先ほど小国町等の紹介がございましたけれども、菊池市等でも昨年から地域おこし協力隊による活動報告会等も行われておりますので、報告会を通じまして住民との意見交換会もできているかと思います。そうしたなか、本町におきましても町外からの報告会を行うことによりまして、町外からの参加者を呼びかけることや行政関係者、また他市町村等の協力隊員等の本町への集客ですね、等の機会とも考えております。そのような形で、まずは年度内に1回は報告会のほうを開催したいと思っておりますので、御協力方よろしくをお願いしたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田上更生君） 1番 牛嶋津世志君。

○1番（牛嶋津世志君） ありがとうございます。ぜひ、実現するようにお願いしたいと思っております。

続きまして、南阿蘇鉄道関連について伺いいたします。

南阿蘇鉄道沿線地域公共交通網形成計画書、ここにありますが、これTPCでも放送されておりましたが、これは高森町のホームページよりダウンロードいたしまして、一通り目を通しましたが、南阿蘇鉄道は一応5年程度で復旧するということでございますが、沿線地域公共交通網形成計画はこれは1期5年で3期15年計画ですね、15年のスパンで計画してあります。ページ数にして112ページ、かなりの量がございました。高森町及び南阿蘇村の地域住民、交通事業者、行政の共同で取り組むということですが、この計画内容を地域住民に分かり易く伝える計画設計ができていいのか、伺いたいと思っております。

これ、政策審議員にお願いいたします。

○議長（田上更生君） 政策推進課審議員 橋本俊太郎君。

○政策推進課審議員（橋本俊太郎君） 南阿蘇鉄道沿線地域公共交通網形成計画についてお尋ねがございました。

まず、この計画について御説明をさせていただきます。南阿蘇鉄道沿線地域公共交通網形成計画ですね、このような冊子のものなんですけれども、こちらは南阿蘇鉄道の全線復旧を見据え、南阿蘇鉄道の持続可能な経営を確保することを目的に、本年３月に策定されたものであります。計画の対象期間は議員からも御発言がありましたとおり２０１８年度から２０３２年度までの１５年間とされております。南阿蘇鉄道の持続可能な経営をいうのは、すなわち南阿蘇鉄道の利用者をどう増やしていくかという問題であり、この計画ではそのための方策として南阿蘇鉄道のＪＲ豊肥本線の乗り入れや他の公共交通機関との連携など、様々な取り組みが記載されています。

御質問のありました住民の方への周知方法ですが、多くの住民の方にこの計画を知っていただくため、まず計画を策定する協議会に公共交通事業者はもちろんのこと、公共交通の利用者、観光関係者など地域の様々な方に参画をしていただきました。また、計画策定後は町のホームページに計画を掲載をしたほか、たかもりポイントチャンネルでその解説番組も放送するなどの取り組みを行っております。

今回、議員からこの場で御質問をいただいたことも、住民の方にこのような計画があるということをお伝えするという点で、大変ありがたい機会を頂戴したと考えておまして、今後とも様々な機会、手段を通じ、計画の内容を住民の皆さまにお伝えしてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（田上更生君） １番 牛嶋津世志君。

○１番（牛嶋津世志君） 最後に、今地域住民にどうやって分かり易く伝えるかと言うことの延長でございますが、１５年という長いスパンでの計画書でありますので、これを冊子にして、これから南阿蘇を担っていく若い世代ですね、高森町の中学校及び高校、また南阿蘇村の中学校に配付して、次世代の若者たちのほうに参加を呼びかけ、将来の夢・創造的復興を目指すのも必要ではないかと思いますが、町長の意見としてこれはどんなふうにお考えでしょうか。お願いします。

○議長（田上更生君） 町長 草村大成君。

○町長（草村大成君） 町の中学校、高校や南阿蘇村の中学校に、義務教育ですが中学校ですね、配布してはどうかというところだと思いますが、まずその前に、議員がその前に御質問なされた地域おこし協力隊について、１点御理解いただきたいと思

います。高森町役場の職員は、全地域おこし協力隊の隊員については全高森町役場の職員は理解をいたしております。それと報告会というところでございますが、これに関しては当然田上課長がお答えしたとおりでございますが、逆に言いますと、今回議会議員さんからもそのような御提案をいただきましたので、仮に地域おこし協力隊の全国サミットを例えばの話、高森町で開催できるような、そのような報告会もやっぱりやっていかなければいけないのではないかと。仮にそれができたとするなら、全国からこのサミットで地域おこし協力隊に手を挙げられている方が、かなりの人数来られますので、そして逆にいうと町を見ていただいたほうが早いのではないかと考えております。なぜならば、確かに住民の皆さまにいろんな形での報告会というのは大事だと思いますが、私は議場で何回も発言しているんですけども、報告会を開いて例えば先ほど違う町村で50名ぐらいの参加があったと。なかなかこれは情報の共有というところは、難しいと思います。すべての住民の方です。ね。ですので、たかもりポイントチャンネル等を使って、議員がおっしゃるように情報の発信と共有と、そして共感に関してはそれぞれの国民の方、町民の方がどう思われるかというのは、それは分かりませんが、行政としてはそこを図っていききたい。であるとするなら、先ほど申し上げましたように全国サミットを狙ってみるのも、一つの手段ではないかなと思っております。

次の御質問である、私にいただきました高森町の中学校、南阿蘇村の中学校ですね。私は現時点では、まず大前提としてこの計画をつくった協議会のなかで、その義務教育期間にダイジェスト版を使って配布したらどうかという意見は、住民さん、議会そして業者さんも含めて、すべてのその協議会のメンバーの中からは、大前提としては出てきておりませんでした。ですが、議員さんがおっしゃるのはもっともだと思います。15年あると。112ページに渡って15年あるということは理解はできますが、現時点で私がお答えすることはできませんし、考えておりません。理由といたしましては、これは現場の先生方、学校の現場の先生方がまずこの南阿蘇鉄道のこの計画を理解をしていただいた上で、そして御協力をいただいた上で、そして生徒等に配布をしなければ、ただやって終わりということであれば、やる意味が全くないと考えておるからでございます。また町民に対しての広報に関しては、たかもりポイントチャンネルでうちは全世帯見れますので、これを流していくことによってある程度周知徹底ができますが、南阿蘇村の村民に対してのこの広報となると、なかなかこれは難しいことでありまして、南阿蘇村の議会もしくは村長さん、これは高森の町議会も通していただいて、議会のほうからも一緒になってそれを考

えてみたらどうかと。吉良村長の施策、ケーブルテレビによる行政情報の提供を図っていきたいということを選挙のときに述べられておりますし、それを掲げられておりますので、南阿蘇村の情報基盤整備は民間の業者が持っていますので、その民間の業者の許しを得て、そして高森町から例えば役場にでも公民館にでも引き込むことによって、ケーブルテレビも使えるようになりますので、できればそういう画期的そして将来をこの南阿蘇鉄道というのは南郷谷全部ですので、議員からもいろんな提案を南阿蘇の村民の代表である議員に対して御定義をしていただければ、私としては大変助かるところでございます。

以上でございます。

○議長（田上更生君） 1 番 牛嶋津世志君。

○1 番（牛嶋津世志君） 先ほどの地域おこし協力隊では、職員の皆さんには大変失礼をいたしました。町長から御指摘がありましたように、全員が理解されているものと理解いたします。

南阿蘇鉄道に関しては、高森町、南阿蘇村、全体のことでございますので、今後南阿蘇の議会とも相談しながら、15 年という長いスパンでの、今、計画書でございますので、少しでも早く進むように。また、議会同士でも早目に協議をしていきたいと思っております。

これで、私の一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございます。

○議長（田上更生君） これで一般質問は終了しました。

—————○—————

○議長（田上更生君） 以上で、本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会いたします。

お疲れさまでございました。

—————○—————

散会 午前 11 時 00 分